

平成 24 年度は、歴代陸軍参謀総長及び海軍軍令部長の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物の関連史料を紹介しています。

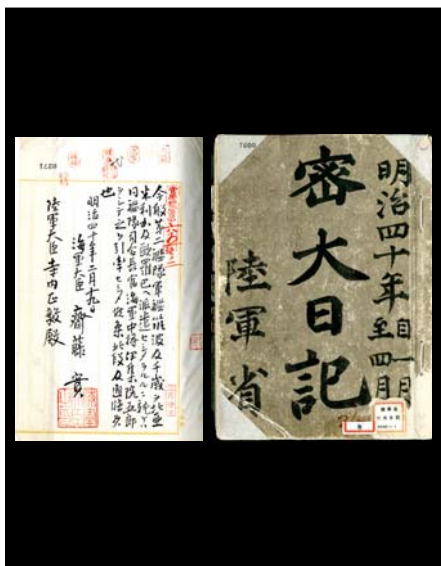
《 <sup>いじゅういん</sup> 伊集院 <sup>ごろう</sup> 五郎 1852～1921年 》  
—日本海海戦の影の功労者—



小口径砲用下瀨火薬試験結果検定

(登録番号：海軍省一公文雑輯-M33-7-281)

伊集院五郎元帥は、明治18年に海軍大尉に任官、その後、第2艦隊司令長官、第1艦隊司令長官、軍令部長等の要職を歴任しました。この史料は、当時海軍技術会議委員長であった伊集院少将が同会議議長角田秀松に報告した明治33年9月2日付の「小口径砲用弾底着発信管試験結果検定」です。下瀨火薬の威力を活かすため大小両口径砲用の信管（「伊集院信管」）を開発した伊集院少将は、この試験において「二号伊集院信管ニ於テハ傳火薬ノ効力ヲ尚一層大ナラシムル為メ信管ニ爆発管帽ヲ附シ之ニ傳火薬ヲ装填シテ一号伊集院信管ノ如ク為スコト宜シカル可シ」と報告しています。同信管は、明治38年の日本海海戦で、下瀨火薬とともにその威力を発揮することになります。



海軍省 第2艦隊派遣の件

(登録番号：陸軍省一密大日記-M40-1-8)

軍令部次長として日露戦争に参戦した伊集院中将は、当時の軍令部長伊東祐亨大将をよく補佐し、戦後その功績により功一級金鷄勲章を受章します。その後第2艦隊司令長官に補せられた伊集院中将は、明治40年「筑波」、「千歳」の二艦を率いて海外に赴きます。この史料は、海軍大臣齋藤実中将が陸軍大臣寺内正毅中将に通牒した明治40年2月19日付の第2艦隊派遣の件で、「今般第二艦隊軍艦筑波及千歳ヲ北亜米利加及欧羅巴へ派遣セシメラルルニ就テハ同艦隊司令長官海軍中将伊集院五郎ヲシテ之ヲ引率セシメ候」とし、航海航路及び寄泊地の概略の予定が添付されています。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「お知らせ」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断引用はお断りします。  
防衛研究所企画部企画調整課  
専用線：8-67-6522、6588（史料紹介コーナーのみ6668）  
外線：03-3713-5912  
FAX：03-3713-6149 E-mail：nidsnews@nids.go.jp  
※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>